

令和元年11月11日（月）
令和元年度 第3回
大阪府河川整備審議会

参考資料1

淀川水系西大阪ブロック 河川整備計画（変更原案） についての住民説明会

令和元年10月
大阪府西大阪治水事務所

令和元年10月16日（水）19時～20時
大阪府西大阪治水事務所 A・B会議室

1. 河川整備基本方針・河川整備計画について
2. 淀川水系西大阪ブロック河川整備計画(変更原案)
 - 2.1 河川整備計画の目標に関する事項
 - 2.2 河川整備の実施に関する事項
 - 2.3 その他河川整備を総合的に行うために必要な事項



1. 河川整備基本方針・河川整備計画について

河川整備基本方針・計画

河川法により、河川管理者は河川整備基本方針・河川整備計画を定めることとされている。

【河川整備基本方針とは】

○河川整備基本方針とは、将来の川のあるべき姿や河川整備の長期的な基本となる方針(治水・利水・環境)を定めたもの。

⇒淀川水系河川整備基本方針 平成19年8月 国土交通省河川局

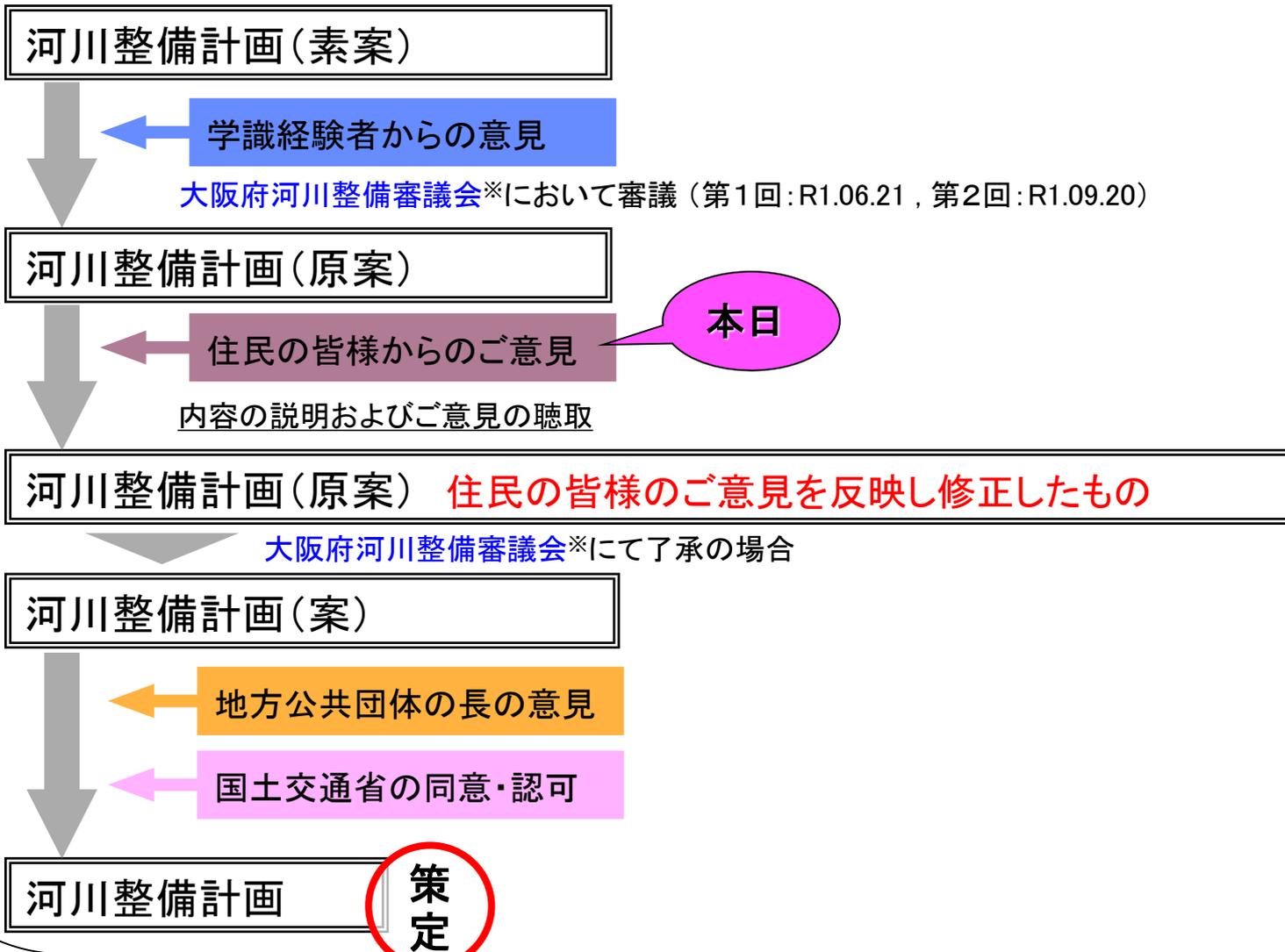
【河川整備計画とは】

○河川整備基本方針に基づき、概ね20～30年間で計画的に行う河川の整備や管理に関する具体的な目標や内容を定めたもの。

⇒淀川水系正蓮寺川ブロック河川整備計画	策定	平成16年4月	大阪府
淀川水系西大阪ブロック河川整備計画	策定	平成19年4月	大阪府・大阪市
(正蓮寺川ブロック含む)	変更	平成27年3月	大阪府・大阪市

1. 河川整備基本方針・河川整備計画について

河川整備計画の策定フロー



※府内河川の整備に関する「河川整備基本方針」及び「河川整備計画」の策定その他に際して、学識経験者等から幅広いご意見をいただくために、「大阪府河川整備審議会」を設置しています。

河川整備計画の記載内容

第1章 河川整備計画の目標に関する事項

第1節 流域及び河川の概要

第2節 河川整備の現状と課題

第3節 流域の将来像

第4節 河川整備計画の目標

1. 洪水、高潮等による災害の発生の防止または軽減に関する目標
2. 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する目標
3. 河川環境の整備と保全に関する目標
4. 河川整備計画の対象区間
5. 河川整備計画の対象期間
6. 河川整備計画の適用

第2章 河川整備の実施に関する事項

第1節 河川工事の目的、種類及び施行の場所並びに当該河川工事の施行により設置される河川管理施設の機能の概要

第2節 河川維持の目的、種類及び施行の場所

第3章 その他河川整備を総合的に行うために必要な事項

第1節 地域や関係機関との連携に関する事項

第2節 河川情報の提供に関する事項

2.1 河川整備計画の目標（流域及び河川の概要：流域の概要）

- 西大阪ブロックは、旧淀川（大川、堂島川、安治川）、土佐堀川、木津川、尻無川、東横堀川、道頓堀川、住吉川および正蓮寺川、六軒家川の流域から構成されています。これらの河川は大阪の中心市街地を網状に流れて大阪湾に注ぐ河川です。
- 大阪市は、我が国の主要都市の中でも有数の人口密度、事業所数を誇る大都市であり、これらの河川はその中核部を流れています。
- 対象河川は全て感潮河川で勾配もほとんどなく（縦断勾配1/12,500～水平）、流れは緩やかです。

表 対象河川一覧

河川名	指定区間延長 (km)	流域面積 (km ²)
旧淀川 (大川・堂島川・安治川)	13.83	288.0 (流域面積に寝屋川流域含む)
土佐堀川	2.45	
木津川	8.80	
尻無川	4.10	
東横堀川	2.175	
道頓堀川	2.745	
住吉川	3.05	
正蓮寺川	4.60	10.8
六軒家川	1.45	

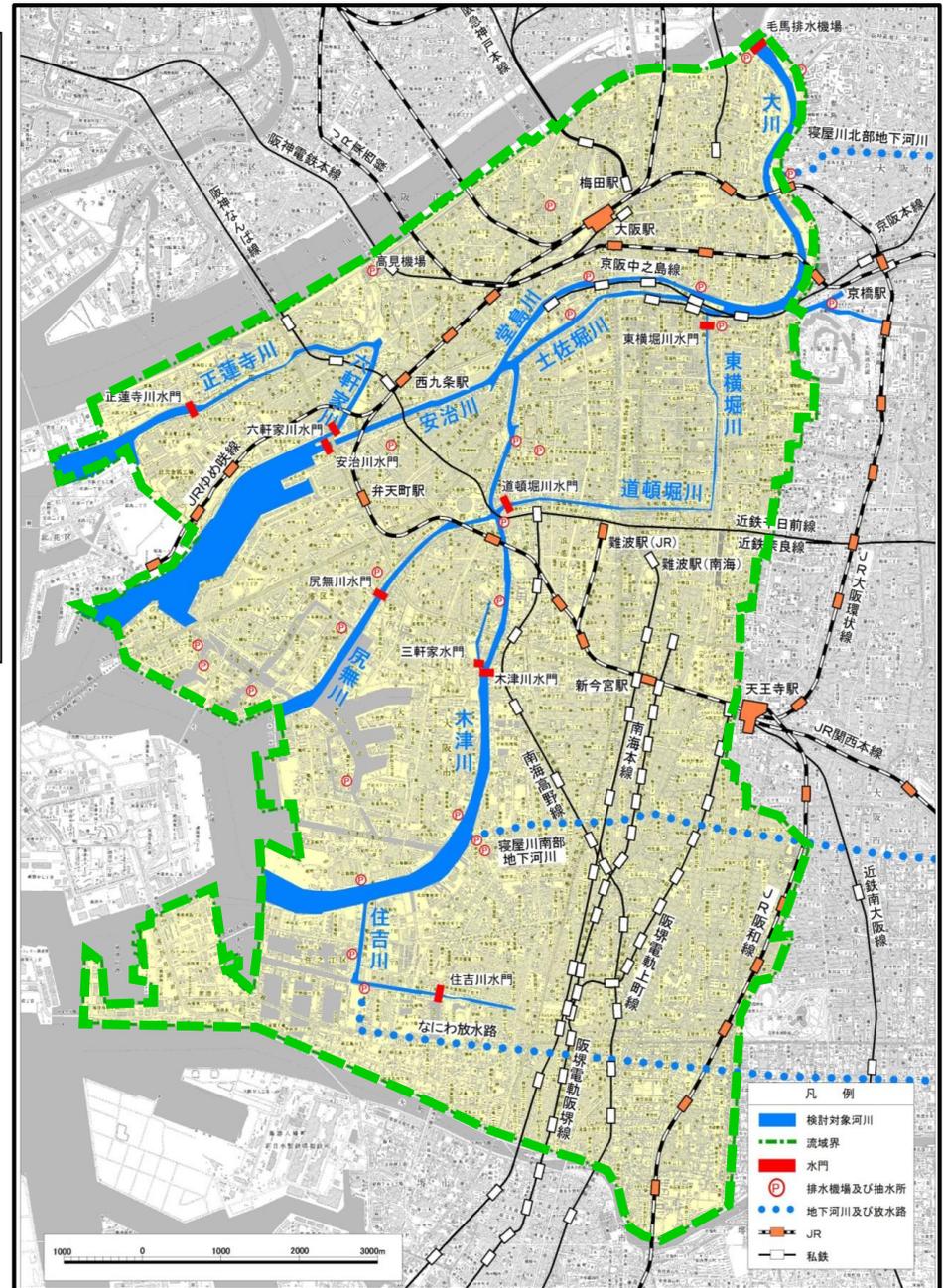


図 流域図

2.1 河川整備計画の目標に関する事項（流域及び河川の概要：流域の特性①）

- 流域は、大阪平野の河口部に位置し、低地帯で海拔ゼロメートル以下の地帯も存在します。
- 地質は、淀川水系、大和川水系の河川によって堆積された軟弱な沖積層で覆われており、多量の地下水汲み上げにより昭和10年～昭和36年頃に激しい地盤沈下に見舞われてきました。
- 現在では、地下水汲み上げ規制等により沈下はおさまり、沈下の進行はほとんど見られません。



図 海抜ゼロメートル地帯の分布(H19.7)

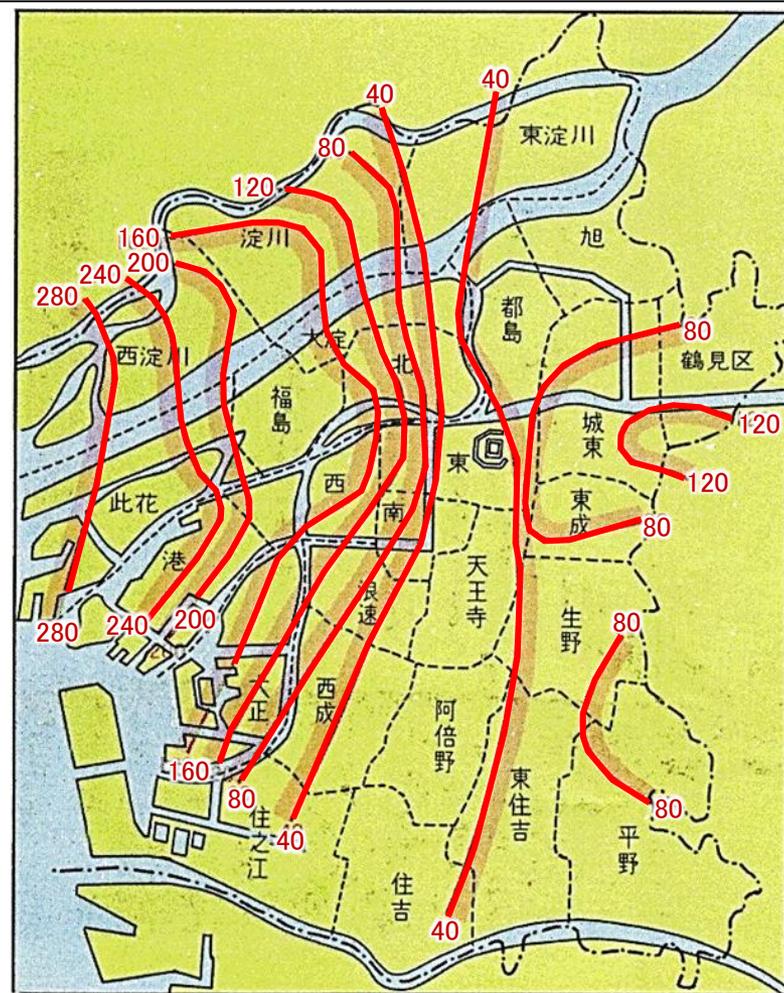


図 大阪市内の地盤沈下等高線図
(昭和10年～昭和54年)

2.1 河川整備計画の目標に関する事項（流域及び河川の概要：流域の特性②）

- 気候は温暖で降水量の少ない瀬戸内式気候に属し、年平均降水量は1,459mmとなっています。
- 流域は、大部分が市街地であるため、自然植生の群落はあまり見られませんが、公園などにおいて、54科231種の植物が確認されています。
- 一方、動物については、魚類は13科23種、鳥類は20科37種、両生類は2科2種、は虫類は1科1種、昆虫類が60科156種確認されています。

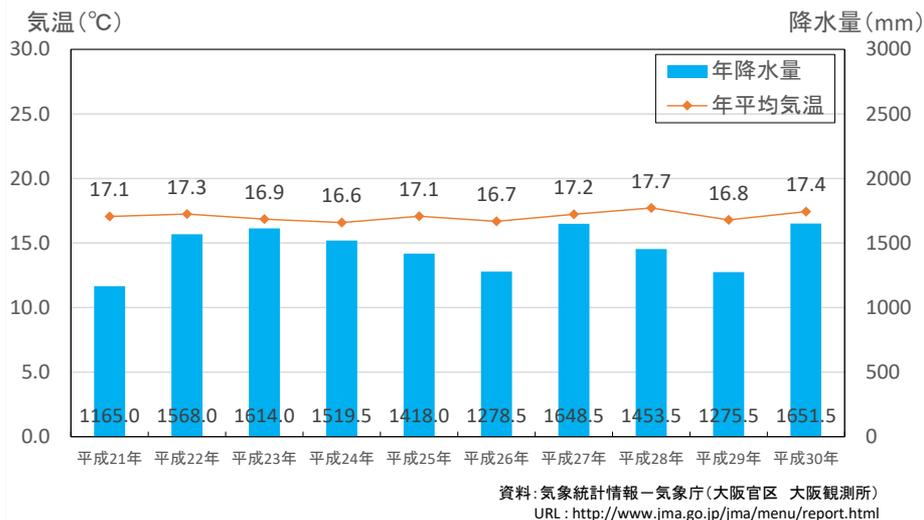


図 年平均気温と年降水量の推移(平成21年～平成30年)

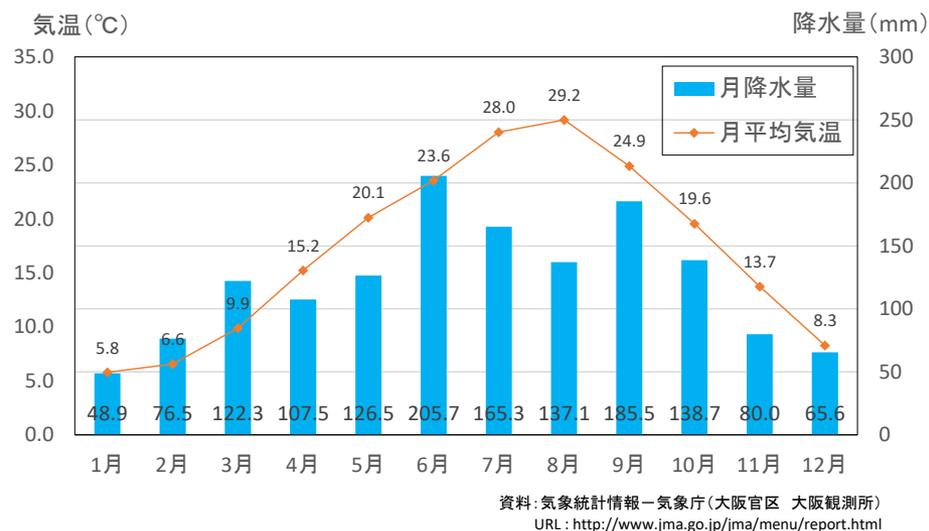


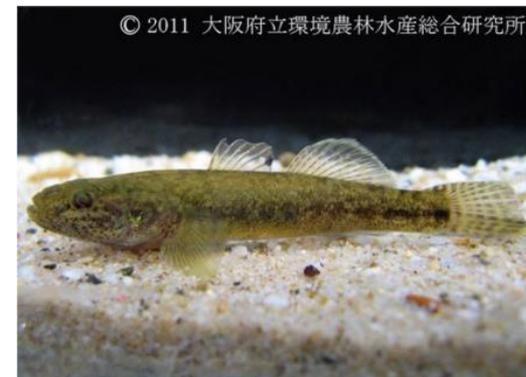
図 月別の平均気温と降水量(平成21年～平成30年の平均)



コアジサシ(絶滅危惧Ⅱ類)



カワヒガイ(準絶滅危惧)

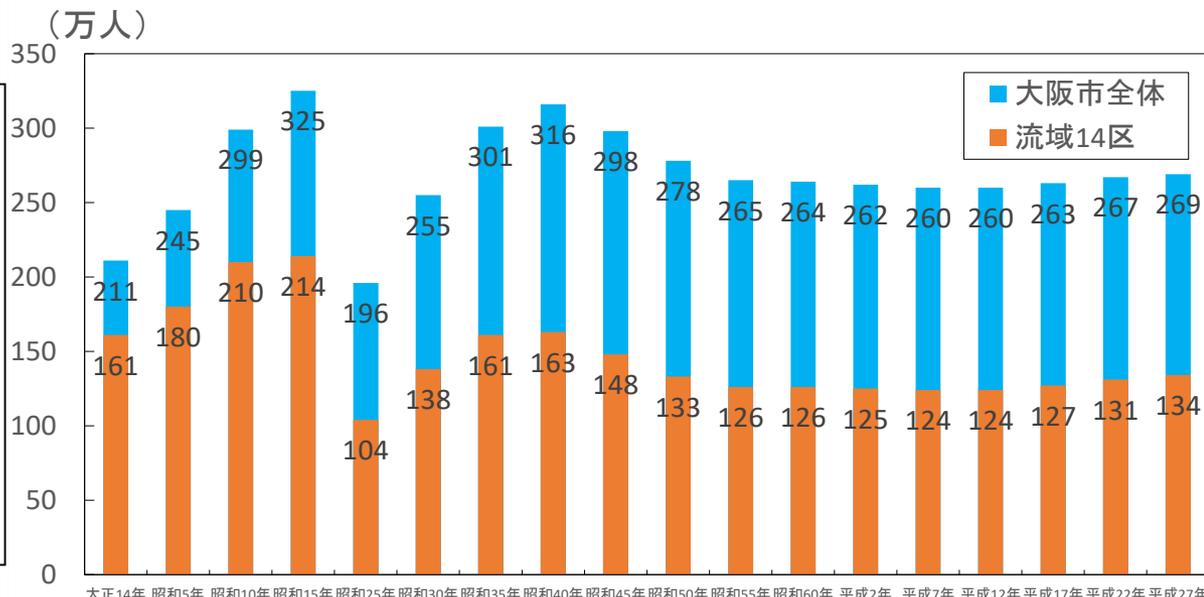


ウキゴリ

2.1 河川整備計画の目標に関する事項（流域及び河川の概要：流域の特性③）

●人口

- 流域14区の人口は、戦後は昭和40年には約160万人に達しましたが、その後は、ベッドタウンへの転出などにより人口は減少に転じました。
- 平成17年以降は、若干の増加傾向にあり、平成27年現在（最新の国勢調査結果）は約134万人となっています。



資料：大阪人口統計調査
URL : <http://www.city.osaka.lg.jp/toshikeikaku/page/00250580.html>

図 大阪市及び流域14区の人口動態(国勢調査：大正14年～平成27年)

●歴史・文化・観光

- 流域の歴史はまさに大阪の歴史でもあります。古代の大阪は難波とよばれ水上交通の要衝であり、「難波宮」(7世紀)時代には、我が国の政治文化の中心地にもなりました。
- 近世、大阪が我が国随一の商都「天下の台所」として発展したのは、天満川、東横堀川などの開削により「舟運」を中心とした城下町の整備がなされたことによるものでした。
- 天神祭や歌舞伎の船乗り込みなど水に係わる伝統行事が今もなお継承されています。



図 天神祭の様子

2.1 河川整備計画の目標に関する事項（流域及び河川の概要：河川の特長）

- 高い防潮堤により、治水に対する安全性を確保してきましたが、河川とまちを分断されたところが多くなっています。
- しかし、近年では、かつての“水の都”の再生に向けた社会的ニーズ、気運が高まり、「大阪アメニティーパーク」(大川)、「ユニバーサル・スタジオ・ジャパン」(安治川)、「大阪ドーム」(木津川・尻無川)、「湊町リバープレイス」(道頓堀川)など、大阪を代表する集客拠点が河川の沿川に整備されています。また、水都大阪の再生プロジェクトとして、船着き場や水辺のテラスや遊歩道が整備されている。
- 堂島川、安治川、木津川・尻無川でのスーパー堤防の整備などによって、川とまちが一体となった河川整備を進めています。



図 湊町リバープレイス(道頓堀川)



図 八軒家浜船着場



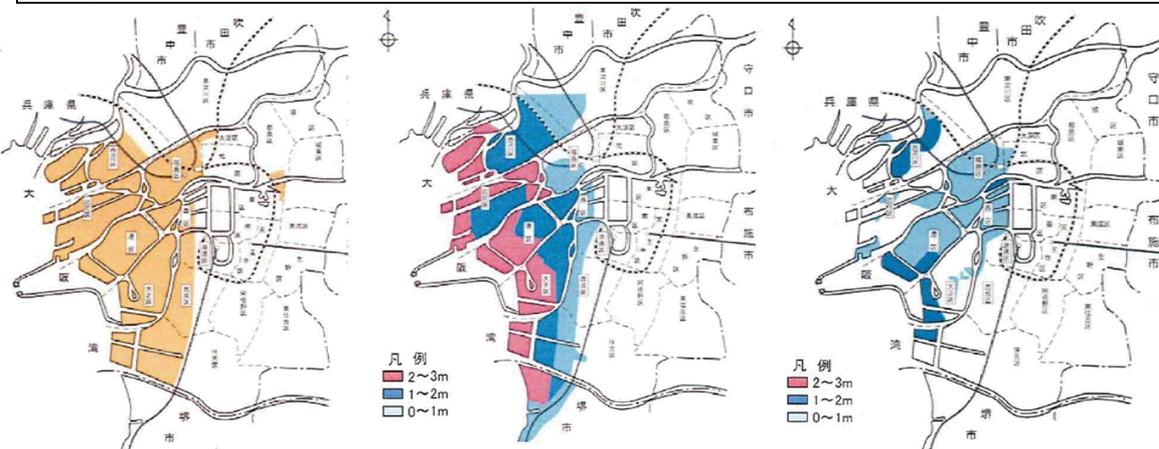
図 賑わい空間整備箇所(尻無川)



図 木津川・尻無川スーパー堤防区間

2.1 河川整備計画の目標に関する事項（河川整備の現状と課題：治水の現状と課題①）

- 西大阪地域は、台風による高潮によりこれまで多くの被害を受けてきており、昭和40年から伊勢湾台風級の台風が最悪となる室戸台風のコースを通過して満潮時に来襲したことを想定して防潮施設整備に着手しています。
- また、昭和52年度から震度5程度の地震に対する耐震事業、平成8年度から阪神・淡路大震災を契機に震度6弱の地震に対する耐震事業に着手しています。



室戸台風(昭和9年)

ジェーン台風(昭和25年)

第二室戸台風(昭和36年)

図 浸水深図

表 主要被害

年別 区分	昭和9年9月21日	昭和25年9月3日	昭和36年9月16日
水害種別	室戸台風 高潮	ジェーン台風 高潮	第二室戸台風 高潮
気圧(mb)	954.4	970.3	937.3
時間最大雨量(mm)	—	19.8	—
総雨量(mm)	22.3	64.7	42.8
潮位(OP+m)	4.20	3.85	4.12
浸水面積(ha)	4,921	5,625	3,100
床上浸水家屋(戸)	府下 166,720	府下 45,406	59,198
床下浸水家屋(戸)	—	35,058	67,782
浸水家屋(計)	166,720	80,464	126,980
死傷者(人)	17,898	21,465	2,165
備考	府下全体		



図 防潮堤



図 防潮鉄扉



図 毛馬排水機場

2.1 河川整備計画の目標に関する事項（河川整備の現状と課題：治水の現状と課題②）

【高潮対策】

- 旧淀川筋の防潮方式については、大型の防潮水門による方式を採用し、高潮時には防潮水門を閉鎖して高潮の遡上防御を図っています。
- 安治川、尻無川、木津川には国内では珍しいアーチ型の大水門が昭和45年に建設されています。



図 防潮水門方式

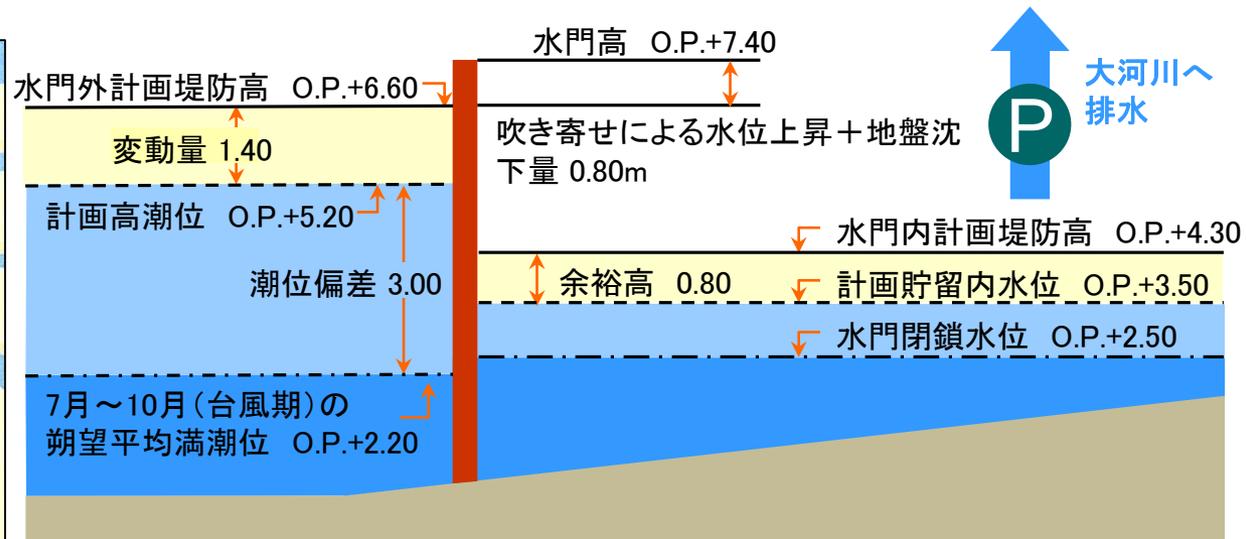


図 防潮水門方式概念図



図 アーチ型の三大水門の様子

2.1 河川整備計画の目標に関する事項（河川整備の現状と課題：治水の現状と課題③）

- 平成30年台風21号において、高潮警報が発令されたため、三大水門を閉鎖しました。
- 大阪府の潮位計（木津川水門外側に設置）にて最大潮位O.P.+5.13mを観測し、過去最高潮位（第2室戸台風）よりも約1m高い潮位となりましたが、管内の高潮による浸水被害はありませんでした。

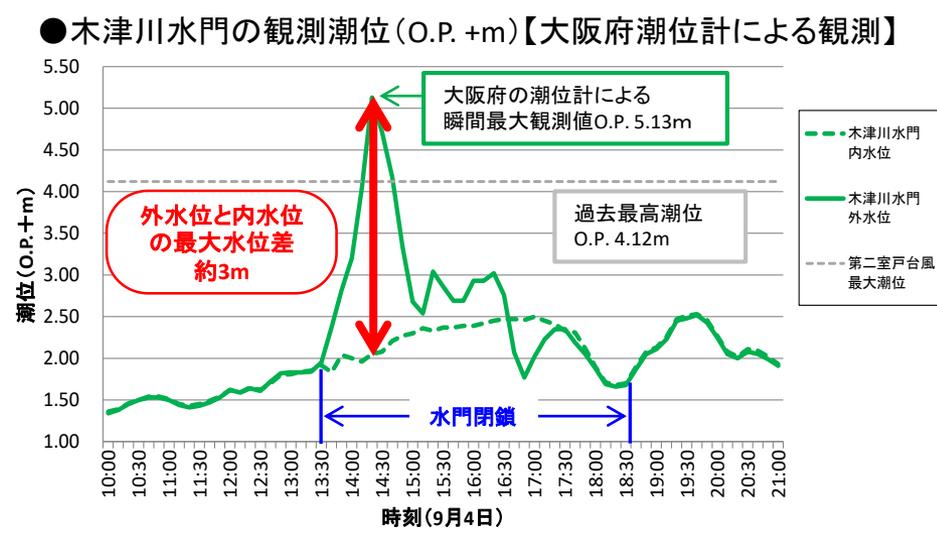


図 平成30年台風21号時の三大水門の様子

【地震対策】

- 東日本大震災発生をきっかけに大阪府では「南海トラフ巨大災害対策等検討部会」及び「南海トラフ巨大地震土木構造物耐震対策検討部会」を設置し、検証・検討を実施しました。
- その結果、大阪府都市整備部地震防災アクションプログラムを見直し、既存防潮堤の液状化対策等を実施し、津波等による浸水被害を軽減する新たな耐震対策事業を実施しています。

H23.3.11 東日本大震災 発生

H24.11 大阪府防災会議に2部会設置
南海トラフ巨大地震災害対策等検討部会
南海トラフ巨大地震土木構造物耐震対策検討部会

- これまで「第一線防潮堤（水門含む）」にて高潮による被害を防御
- 防潮堤、水門の「高さ」は、南海トラフ巨大地震の津波に対しても概ね確保
- 液状化に伴い、防潮堤が変位（沈下等）し高さを維持出来ない

• 防潮堤が液状化による沈下することなどで、**最悪の場合、梅田など都心部を含めた約11,000haが津波等により浸水し、約13.4万人の人命が失われ、約29兆円の経済被害が発生することが判明**

大阪府都市整備部地震防災アクションプログラム（H27～R6）
既存防潮堤の液状化対策等を実施し、
機能維持を図り津波等による浸水被害を軽減

大阪府津波浸水想定（平成25年8月8日公表）

- ・大阪府域に高さが最大となる津波を想定
- ・液状化による防潮堤の沈下を考慮
- ・水門、鉄扉は開放状態
- ・防潮堤は津波越流時に破堤

津波防御ライン(青点線)
[防潮堤+水門]

浸水面積 11,000ha
死者数 134,000人
経済被害 28.8兆円

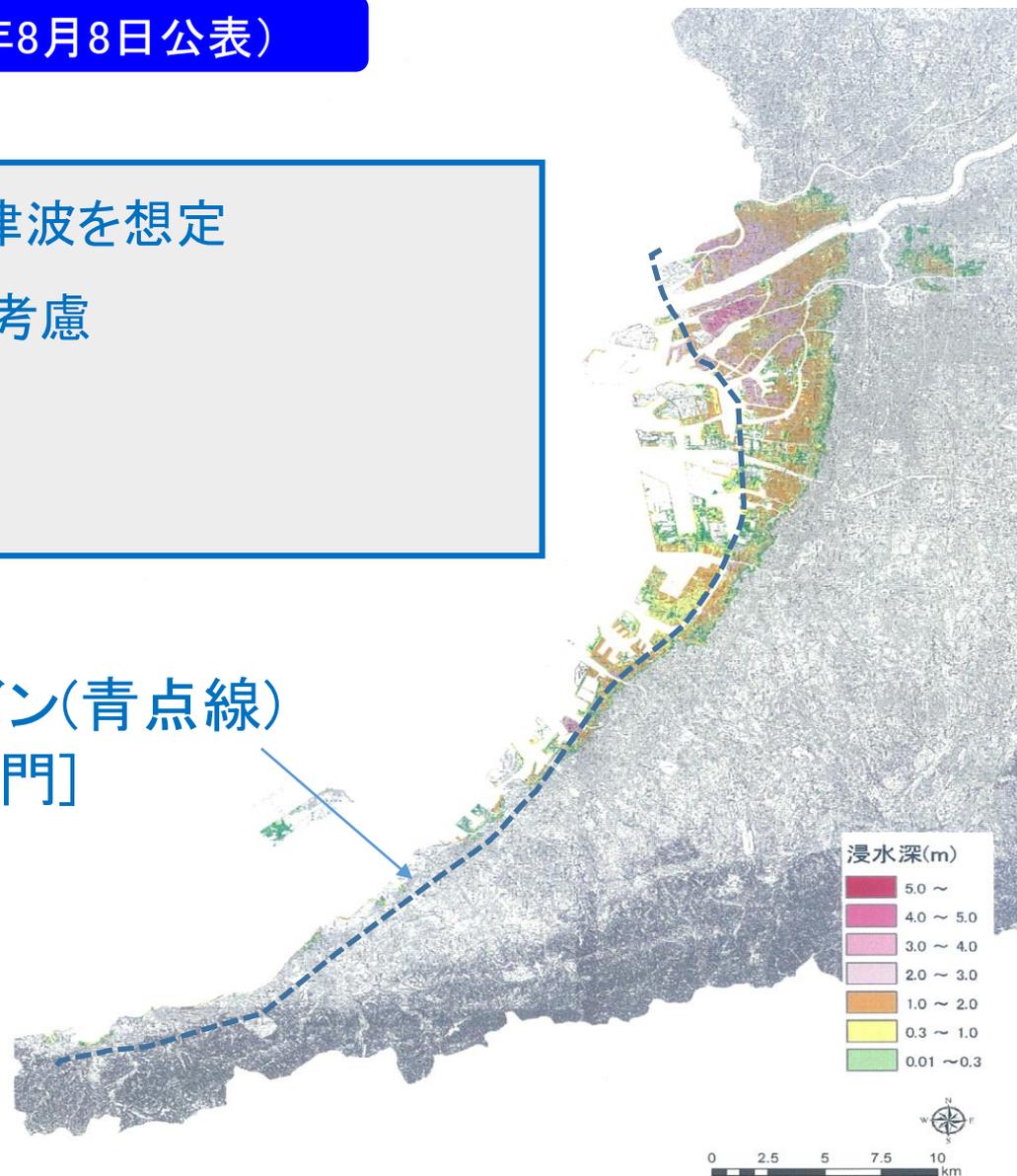


図 大阪府津波浸水想定図

地震防災アクションプログラム（防潮堤の強化）

○対策の考え方

液状化等により沈下（変位）する防潮堤のうち、

- ・マグニチュード8クラスの南海トラフ地震による津波（レベル1津波）に対して浸水を発生させない。
- ・マグニチュード9クラスの地震により、満潮位で津波到達前に浸水を発生させない。

○事業計画

目標：平成26年(2014年)度から令和5年(2023年)度で完成

●事業の優先度について

①津波を最前線で直接防御する第一線防御ライン（水門より外側）の対策を優先して実施します。【**緑実線**：5年で完成】

②中でも、この第一線防潮ラインの内、地震直後から満潮位で浸水が始まる箇所については、避難が間に合わないため、対策を最優先で完成させます。
【**赤実線**：3年で完成】

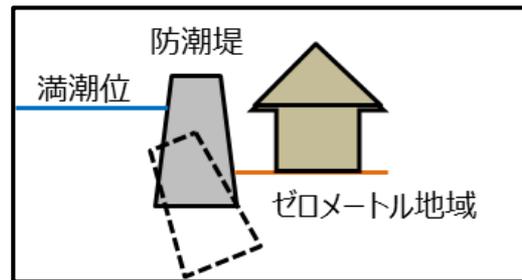
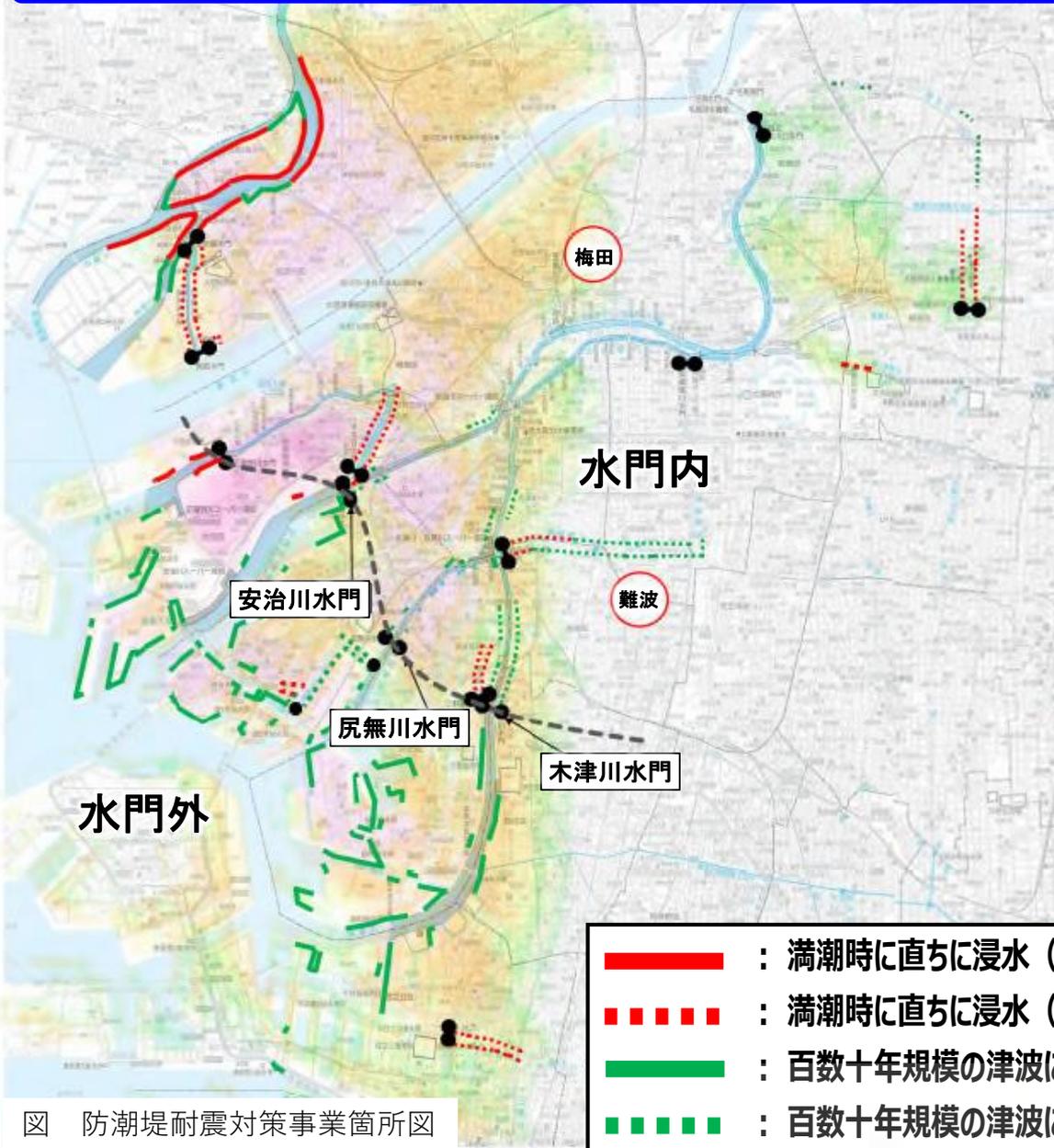
③水門の内側等にある防潮堤については、第一線防潮ラインの液状化対策に引き続き、対策を実施します。【**緑点線**：10年で完成】

④ただし、水門の内側等であっても、地震直後から満潮位で浸水が始まる箇所については、第一線防潮ラインの対策箇所と同様、早期に完成させます。
【**赤点線**：5年で完成】

平成30年度末で完成

2.1 河川整備計画の目標に関する事項（河川整備の現状と課題：治水の現状と課題⑦）

地震防災アクションプログラム（事業箇所図：大阪市内 平成27年3月時点）



※本図は、地震防災アクションプログラム策定時（平成27年3月）の対策実施箇所図で、記載の要対策箇所は、あくまで概略検討結果によるもので、工事の実施に向けた調査設計などを経て、箇所・延長などは変更しています。

- : 満潮時に直ちに浸水（直接潮位の影響あり）
- - - - : 満潮時に直ちに浸水（水門内）
- : 百数十年規模の津波により浸水（水門外）
- - - - : 百数十年規模の津波により浸水（水門内）

図 防潮堤耐震対策事業箇所図

【洪水対策】

- 既に時間雨量80ミリ程度の降雨をHWL以下で安全に大阪湾に流下させることができる河川整備が完了しています。
- 洪水時の寝屋川流域からの流出や、市街地からの排水は、京橋口及び城北川を通じて旧淀川（大川）へ放流され、河道の貯留能力を超えて水位が上昇し、浸水氾濫が広がるおそれがある場合には、毛馬排水機場から淀川へも排水を行っています。

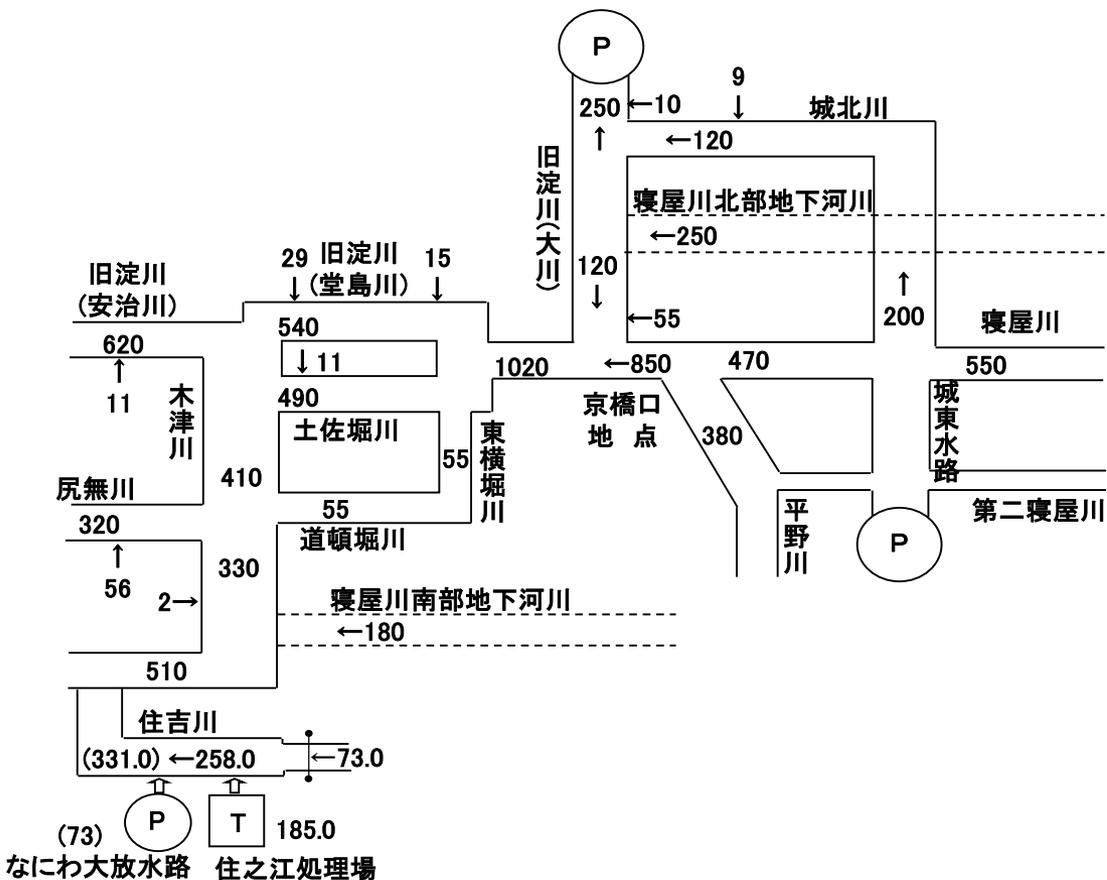


図 計画高水流量配分図

図 毛馬排水機場

2.1 河川整備計画の目標に関する事項（河川整備の現状と課題：治水の現状と課題⑧）

【高潮、地震、津波、洪水対策等の課題】

	現状	課題
高潮対策	<ul style="list-style-type: none"> 恒久的な高潮対策として、伊勢湾台風規模の超大型台風が、室戸台風の経路を通過し満潮時に来襲した場合を想定した「大阪高潮対策高級計画」を策定して、整備を進めてきました。 	<ul style="list-style-type: none"> 水門閉鎖時に計画降雨を上回る降雨を経験したという実績から、高潮と計画降雨を上回る降雨が同時生起する台風の発生の可能性や地球温暖化の進行による気候変動に伴う洪水・高潮のリスクの増大について、今後、調査・検討を進めていく必要があります。
地震対策	<ul style="list-style-type: none"> 防潮施設等の地震対策については、「耐震対策検討部会」における検討・検証結果を踏まえ、緊急的に対策が必要な個所から優先的に対策工事に着手しています。 	<ul style="list-style-type: none"> 西大阪ブロックにおける地震対策については、防潮堤約16.2km、および水門7基（安治川水門、木津川水門、尻無川水門、正蓮寺川水門、住吉川水門、道頓堀川水門、東横堀川水門）の耐震補強を着実に推進していく必要があります。
津波対策	<ul style="list-style-type: none"> 東日本大震災を踏まえ、住民の避難時間を確保すべきとの教訓から「大阪府津波対策マニュアル」を改定しました。また、津波発生時の迅速な施設操作を目的とした管理水門の遠隔操作化・伝送路の二重化及び鉄扉の電動化を進めています。 津波時に大水門を閉鎖すると、L1津波による波力でも損傷し、水門を開放できなくなる恐れがあることから、当面の対策として副水門や中央堰柱の補強を行い、洪水流下に対する機能を確保しました。 	<ul style="list-style-type: none"> 老朽化が進んでいる三大水門（安治川水門・尻無川水門・木津川水門）を高潮への対策に加え、南海トラフ巨大地震による津波にも対応できる水門として改築を行う必要があります。 また、津波の規模によっては水門閉鎖後に水門下流域への反射波の影響も懸念されることから、影響等について検討を行う必要があります。

【河川空間の利活用】

	現状	課題
河川空間の利活用	<ul style="list-style-type: none"> 旧淀川筋及び土佐堀川、東横堀川の沿川は、公園・遊歩道を整備しており、人々の憩いの水辺となっています。 橋梁(天満橋)や護岸、船着場のライトアップによる、夜間の魅力的な景観形成を図っています 古くから舟運が盛んで、現在でも貨物船やクルーズが航行しています。 河川敷地の占用に関する規制緩和の特例措置区域指定を受け、土佐堀川の常設川床「北浜テラス」、道頓堀川のオープンカフェ等として利用できる「とんぼりリバーウォーク」などが整備されています。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後ますますの舟運活性化が予想され、大阪・関西万博開催等を見据えて、より航行安全の確保に取り組む必要があります。 民間事業者等のニーズに応じ、事業エリアの整備を両者が分担して実施するなど、河川空間の利活用事業の促進及び水辺の賑わい創出に協力する必要があります。

平成29年度の舟運利用者数は、100万人の大台を大幅に上回り、**約120万人**となっています。
 また、**インバウンドが占める割合は59.2%**と年々伸びており、来阪外客数の増加が舟運利用者数の増加をけん引する形が顕著となっています。

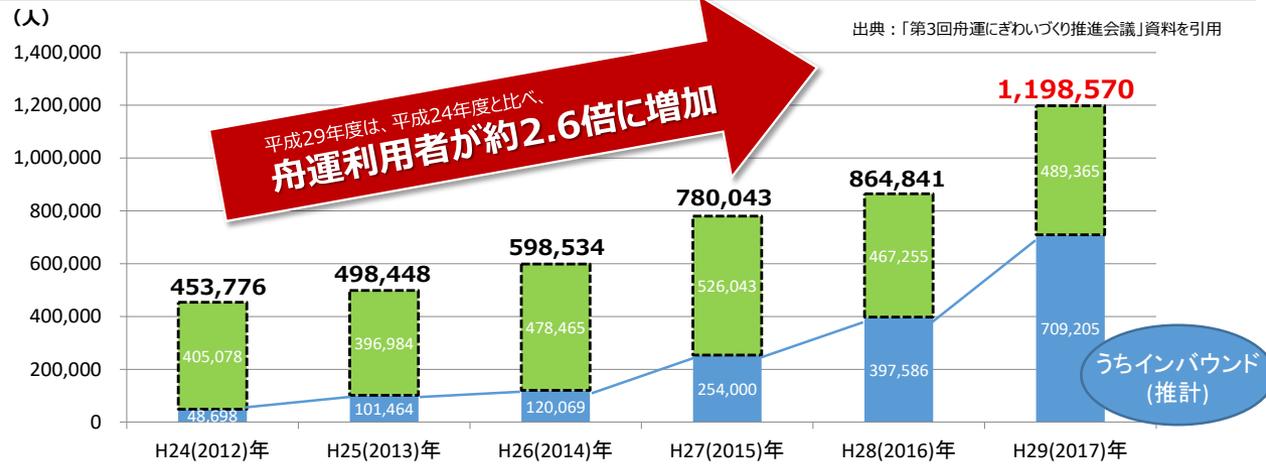


図 水上バスによる運航



図 道頓堀川の賑わい



図 天満橋(ライトアップ)



図 北浜テラス

【水質、自然環境】

	現状	課題
水質	<ul style="list-style-type: none"> 平成29年度の水質調査結果では、対象河川においては全地点で環境基準を達成しています。 ダイオキシン類についても、流域における環境基準の達成状況は改善傾向にあります。 	<ul style="list-style-type: none"> 下水道未整備区域からの汚水流入などが河川の水質に影響を与えているため、下水道事業とも連携し、長期的に河川水質の改善を進めて行く必要があります。 ダイオキシン類については、継続的なモニタリング調査や必要に応じて対策を実施することが必要です。
自然環境	<ul style="list-style-type: none"> 水質向上に伴いアユ等も確認されており、都市域の貴重な生物の生息・生育場になっています。 河岸に造成された並木等は、多くの鳥類や昆虫類の生息場となるとともに、水辺に緑陰を与え、餌を供給する水生生物にとっても重要な環境要素となっています。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後は更なる水質改善に加え、河岸の緑化など生態系にも配慮した工夫を行うことが必要です。 上流域との生物移動の連続性確保についても検討が必要です。 景観上、生物生息環境上の重要性を考慮し、保全に努めながら出来るだけ緑化を図る必要があります。

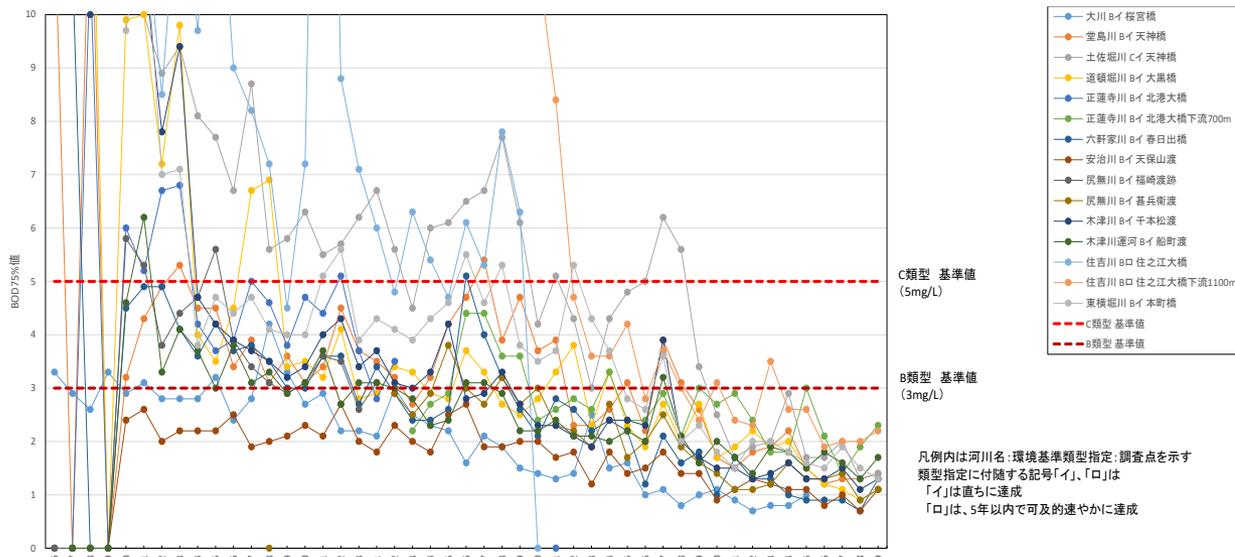


図 対象河川の水質経年変化 (BOD75%値)

2.1 河川整備計画の目標に関する事項（流域の将来像）

- 近年全国で多発している集中豪雨や想定を超える大型台風等による高潮、さらには近い将来発生すると予測されている南海トラフ地震による津波に対しても備えていく必要があることから、地震による防潮堤等の液状化対策や、水門・鉄扉など施設運用に関する信頼性の向上を図るなど、安心・安全なまちづくりを進めることが必要となっています

グランドデザイン・大阪

- ・「都心から周辺山系へとつながるみどりの都市軸の形成」や「実感できるみどりの創出、親水空間の創造」の目標が掲げられている

水都大阪 水と光のまちづくり構想

- ・「大阪の都市力の向上」を目標に、世界に誇る水都大阪ブランドの確立を目指して、「水都を誇りにするライフスタイルが根づくまち（シビックプライドの向上）」、「水都を楽しむ遊び心とてなしの心が来訪者を惹きつけるまち（滞在型観光集客）」、「水都の魅力が人材と投資を集めるまち（経済活性化）」の3つの将来像が掲げられています。

大阪都市魅力創造戦略2020

- ・「水と光の首都大阪の実現」を具体的な取り組みとして掲げられています。
- 今後、増加するインバウンドや2025年に開催が決定した大阪・関西万博などにより、舟運は水都大阪からベイエリアや淀川へ広がることが予想されます。



西大阪ブロックでは、人々が安心して暮らすことができ、美しく、やすらぎや潤いにあふれ、生命に満ちあふれた河川空間を創出し、都心を囲み水の回廊において、水辺の機能を活かしたアメニティ豊かな都市空間の形成を行う。

2.1 河川整備計画の目標に関する事項（河川整備計画の目標：洪水、高潮等）

●高潮対策

- ・伊勢湾台風規模の超大型台風が最悪のコース（室戸台風のコース）を通過して満潮時に来襲したことを想定した恒久的な防潮施設が整備されており、引き続き現状を維持するとともに、近年の気候変動による台風の強大化や、計画規模を上回る洪水が発生することも十分考えられることから、最新の知見も踏まえた検討を進めます。

●地震・津波対策

- ・構造物の供用期間中に発生する確率が高いL1地震動に対しては、全ての河川管理施設が健全性を損なわないことを目標とします。
- ・内陸直下型及び海溝型のL2地震動に対しては、堤防は早期に修復可能な損傷に留め、損傷が生じた場合においても、所定の高さを確保することを目標とします。水門、排水機場については、地震後においても水門の開閉や排水設備の機能を保持することを目標とします。
- ・津波対策については、河川管理施設の補強等によりL1津波を防ぐことを目標とします。L2津波に対しては、施設の損傷等による二次被害の発生を防ぐことを目標とします。

●洪水対策

- ・対象河川は、既に時間雨量80mm程度の降雨をHWL以下で安全に大阪湾に流下させることができる河川整備が完成しているため、現在の流下能力を維持します。

●三大水門の改築

- ・老朽化が進んでいる三大水門を高潮への対策に加え、南海トラフ巨大地震等による津波にも対応できる新たな水門として改築します。

●河川空間の利活用

- まちづくりと連携した水都として魅力ある水辺景観の創出や、橋梁や護岸等のライトアップによる夜間景観の創造と維持を目指します。
- 水都の魅力を高めるハード整備と、安全に裏付けされた舟運の活性化や、水辺の利用を促進するソフト事業を効果的に展開することにより、水辺の活力を都市の活力や魅力につなげ、まちと水辺が一体となった河川空間の創造を目指します。
- 河川空間の多様な利活用ニーズを把握し、水辺を活かしたまちの賑わいづくりへの気運や民間活力を支援することで、地域の特性や実態を踏まえた、水辺の賑わいの創出に努めます。
- 正蓮寺川等総合整備事業により新たな形態となる河川空間については、地域住民の声を取り入れながら、地域に根差した憩いの空間を創出することを目指します。

●河川環境の整備と保全

- 上流域の寝屋川流域や下水道関係機関と連携し、高度処理の導入や雨天時の合流式下水道からの汚濁水の流入対策を実施すること等で、さらなる水質の向上を目指します。
- ダイオキシン類についても継続的にモニタリングを実施し、環境基準の達成・維持に向け、必要に応じて効果的な対策を検討することで、健全な川の姿を保全するとともに良好で安全な水辺環境の創出に努めます。
- 自然環境機能の保全・再生に努めるとともに、施設の整備時には緑化を行うことにより、良好な都市環境の創出に努めます。

2.2 河川整備の実施に関する事項（河川工事の目的、種類等：地震・津波対策①）

- 旧淀川(安治川)、木津川、尻無川、六軒家川、東横堀川、道頓堀川、住吉川では、下に示す整備対象区間において、防潮堤等の耐震補強を実施します。
- 旧淀川(安治川、堂島川)、土佐堀川、尻無川、木津川では、四つ橋より下流側の地盤高さが低い地域について、市街地再開発等との調整が図れた区域で、まちづくりと一体となった地盤の盛土化による堤防機能の高度化をおこない、河川空間を活かした良好な親水空間を創出していきます。

表 整備対象区間と整備内容

河川名及び 施工場所		整備対象区間	事業内容	整備 主体	対象区間整備 延長 (片岸延長)
旧淀川	安治川	全川	防潮堤耐震補強	大阪府	約0.1km
木津川		全川	防潮堤耐震補強	〃	約3.4km
尻無川		全川	防潮堤耐震補強	〃	約0.1km
六軒家川		全川	防潮堤耐震補強	〃	約2.2km
東横堀川		全川	防潮堤・水門耐震補強	大阪市	約4.4km
道頓堀川		道頓堀川水門から湊町 日本橋から上大和橋	防潮堤・水門耐震補強	〃	約2.4km
住吉川		全川	防潮堤・水門耐震補強	〃	約3.6km
各河川の水門、鉄扉			伝送路二重化・自動化 電動化	大阪府	—
三大水門(安治川、木津川、尻無川)			改築	大阪府	—
旧淀川(安治川、堂島川)、土佐堀川、尻無川、木津川	四つ橋より下流側	堤防機能高度化	大阪府	市街地再開発等との調整が図れた区間	

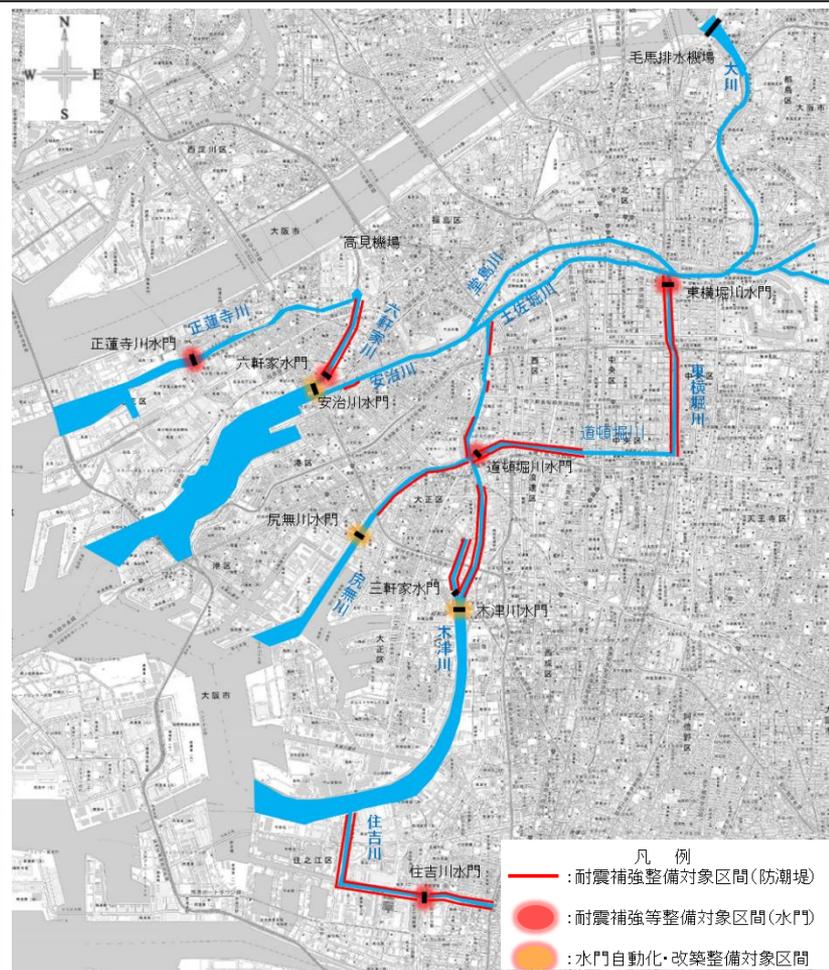
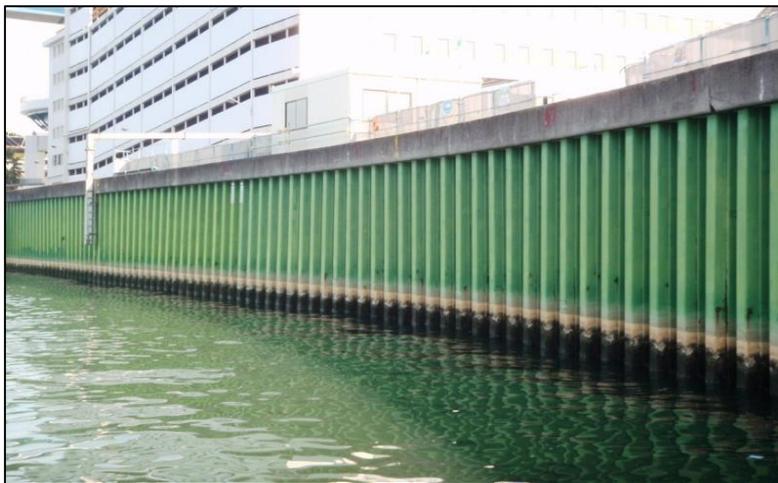


図 整備対象区間

防潮堤の液状化対策工の事例



対策前



施工中



対策後

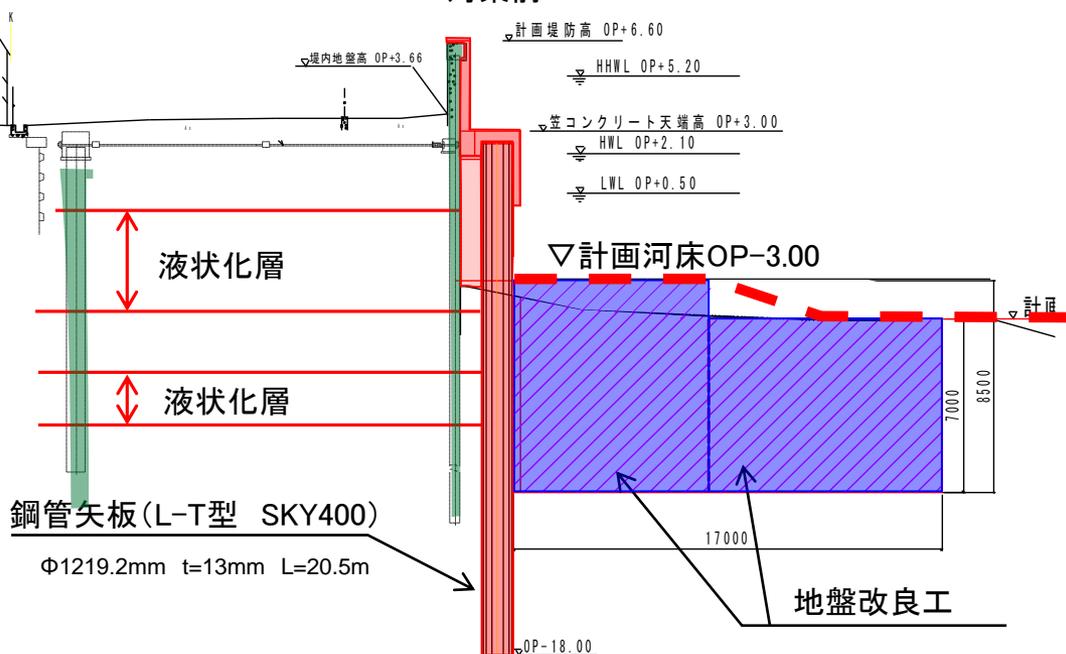


図 防潮堤液状化対策 標準断面図(木津川)

2.2 河川整備の実施に関する事項（河川工事の目的、種類等：三大水門の改築①）

- 老朽化が進んでいる三大水門（安治川水門・尻無川水門・木津川水門）は、高潮への対策に加え、南海トラフ巨大地震等による津波にも対応できる水門として改築を行うこととし、現在の水門付近に新たな水門を建設します。

●三大水門改築の概要

三大水門（安治川水門・尻無川水門・木津川水門）の有する治水面の重要性を考慮し、老朽化に伴う寿命を迎える前に三大水門を改築することとし、木津川水門、安治川水門、尻無川水門の順に整備を行う予定です。

表 三大水門改築 計画案

整備期間	第1段階 令和元年～ 令和10年	第2段階 令和11年～ 令和20年	第3段階 令和21年～ 令和30年
整備箇所			
木津川水門改築	約9年間		現木津川水門寿命 (令和13年)
安治川水門改築	約9年間		現安治川水門寿命 (令和16年)
尻無川水門改築	約9年間		現尻無川水門寿命 (令和23年)

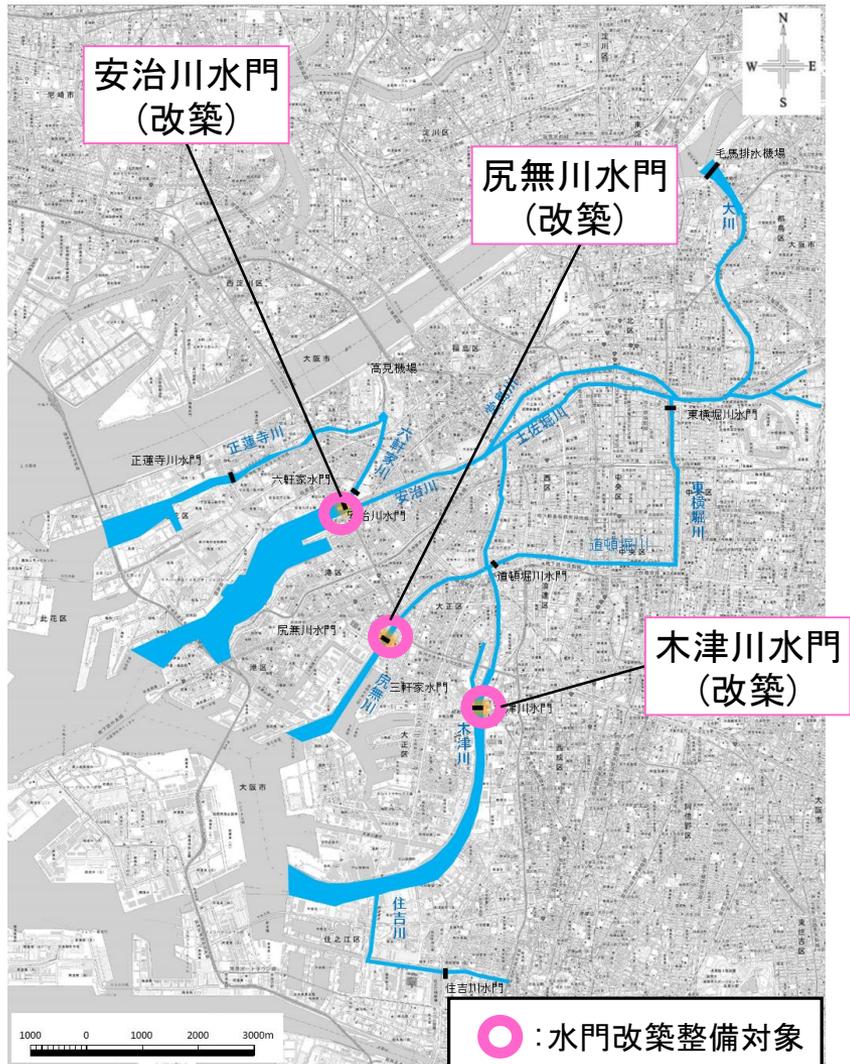


図 水門改築整備対象位置

2.2 河川整備の実施に関する事項（河川工事の目的、種類等：三大水門の改築②）

- 仮に三大水門を改築せず、水門閉鎖できない場合に陥ったとしても、これまでの防潮堤の整備等により150年確率に相当する高潮(O.P.+4.45m)までは、被害は発生しません。
- しかし、水門内の防潮堤の高さは、計画高潮位(O.P.+5.2m)よりも低い高さで整備されているため、計画高潮位の高潮が発生すると大阪市内において浸水が発生します。

●三大水門を改築しない場合の高潮浸水範囲

潮位(O.P.+4.45m)

【確率規模:150年確率】

計画高潮位(O.P.+5.2m)

【確率規模:500年確率】

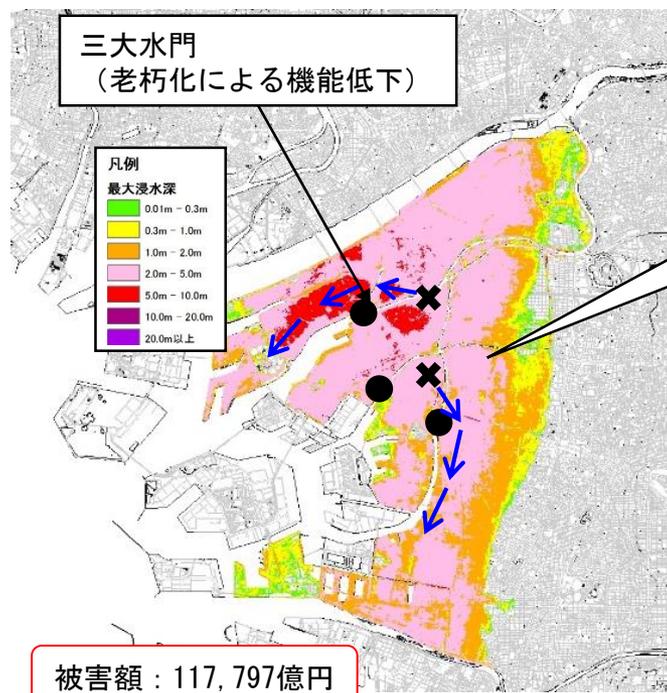
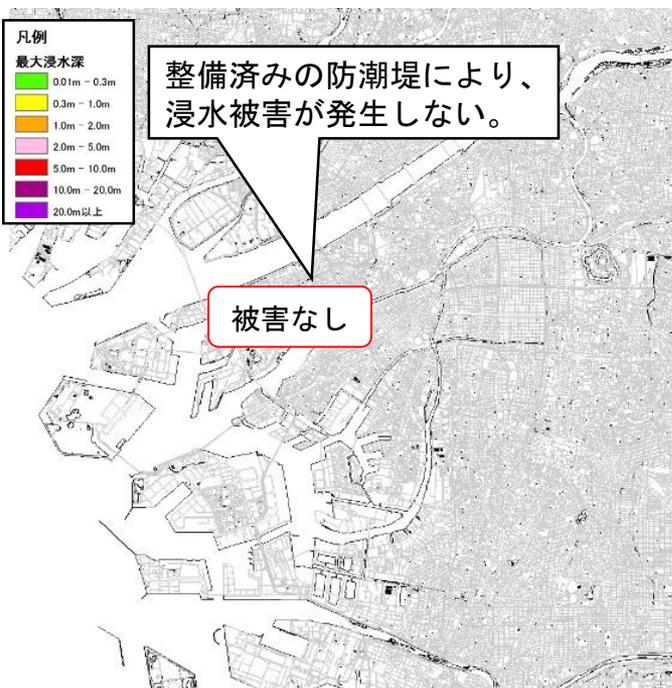
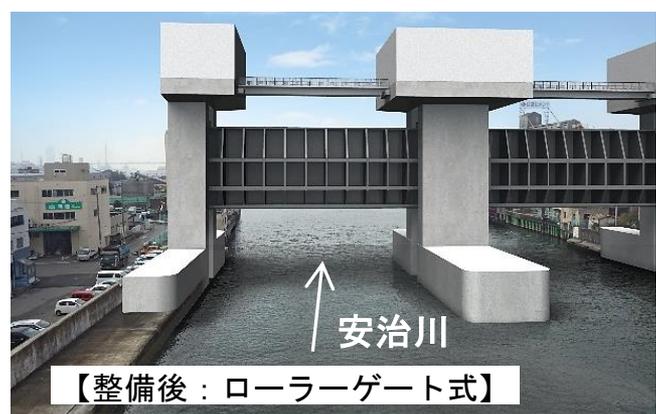
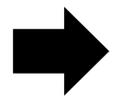
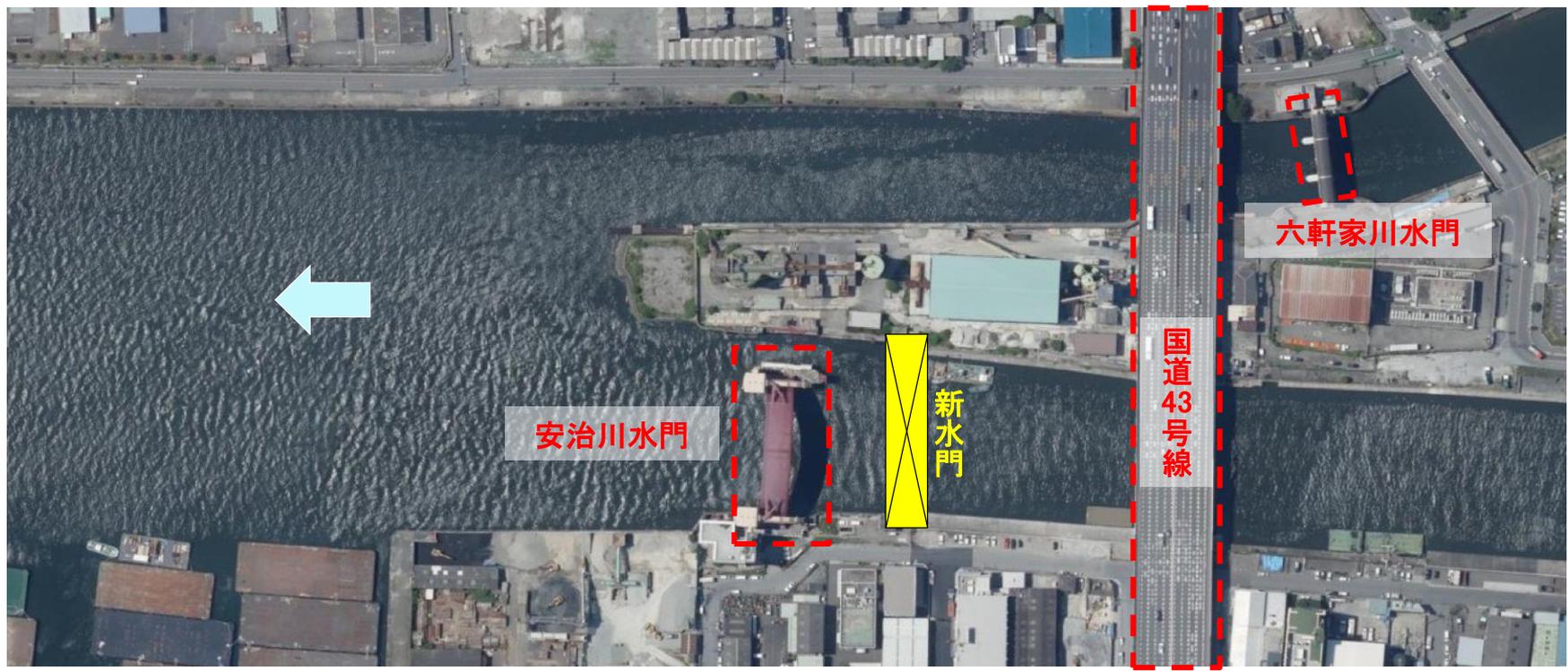


図 高潮における浸水範囲

2.2 河川整備の実施に関する事項（河川工事の目的、種類等：三大水門の改築③）

【安治川水門】

- 新水門は、施工性、経済性、周辺の土地環境を踏まえ、現水門の直上流とする。



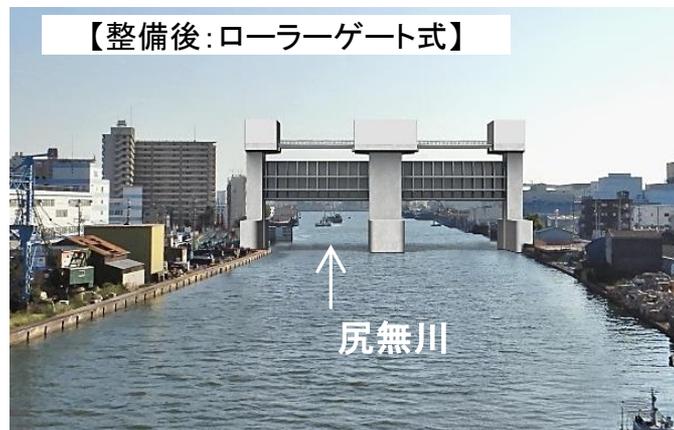
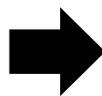
※詳細な位置やデザインについては、今後の詳細設計で変更する可能性があります。

図 水門改築イメージ図

2.2 河川整備の実施に関する事項（河川工事の目的、種類等：三大水門の改築④）

【尻無川水門】

- 新水門は、施工性、経済性、周辺の土地環境を踏まえ、現水門の直上流とする。



※詳細な位置やデザインについては、今後の詳細設計で変更する可能性があります。

図 水門改築イメージ図

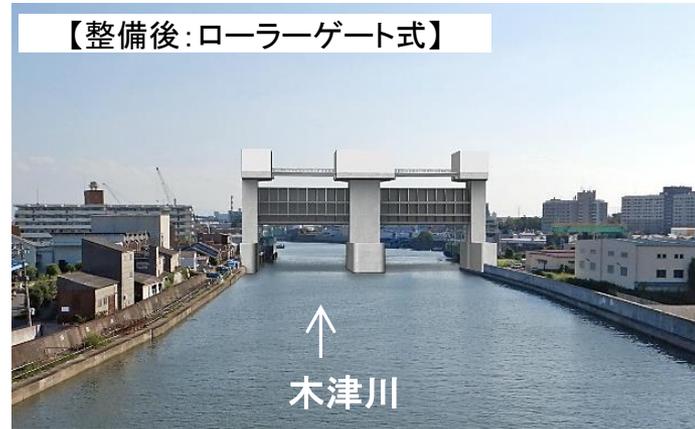
2.2 河川整備の実施に関する事項（河川工事の目的、種類等：三大水門の改築⑤）

【木津川水門】

- 新水門は、施工性、経済性、周辺の土地環境を踏まえ、現水門の直上流とする。



図 水門改築位置図(木津川水門)



※詳細な位置やデザインについては、今後の詳細設計で変更する可能性があります。

図 水門改築イメージ図

【三大水門の改築：新水門の景観検討の方向性】

- 大阪のベイエリアは2025年日本国際博覧会開催決定やIRを含む国際観光拠点形成に向けた夢洲地区の土地造成・基盤整備事業などの整備が計画されてます。
- 水都大阪を象徴する舟運についても夢洲という新たな目的地による新航路の設定や船便の増強による利便性向上や、河川周辺エリアの新たな観光コンテンツの拡充等が考えられます。

三大水門は、治水施設として府民を守る重要な施設だけでなく、国内でも珍しい形式であることもあり、大阪ミュージアムや大阪市の都市景観資源に登録されており、地域を象徴する施設でもある。



図 安治川水門



【新水門景観検討の方向性】

さらなる発展が見込まれるベイエリアと大阪の中心市街地を結ぶ舟運の中間に位置することから良好な河川景観を形成するよう配慮することはもとより、水都大阪の水辺空間などまちの賑わいのある河川景観の形成にも配慮する必要がある。

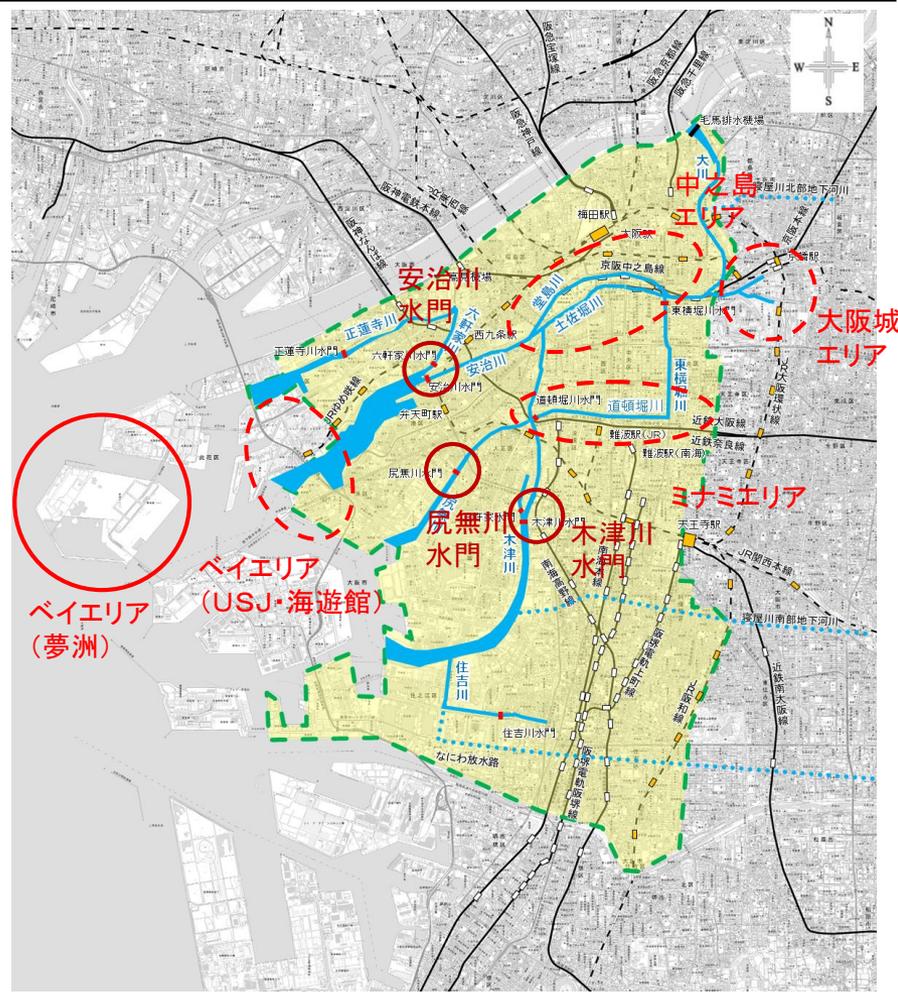


図 大阪市内中心部とベイエリア

2.2 河川整備の実施に関する事項（河川維持の目的、種類等）

- 河川の維持管理は、災害発生の防止、河川の適正な利用、流水の正常な機能の維持及び河川環境の整備と保全の観点から、河川の有する治水・利水・環境などの機能を十分に発揮させるよう適切に行います。
- 施設の定期点検や必要に応じた緊急点検を実施し、構造物の損傷、劣化状況の把握
- 特に、大阪府管理の水門については、出水期では月2回（通常は1回）、定期試運転を実施
- 道内の管理については、三大水門が正常に稼働するよう定期的に浚渫を行うとともに、他の箇所でも必要に応じ、浚渫を実施
- 許可工作物の管理者に対しても、適切に点検を実施し、維持修繕を行うよう周知徹底
- 多くの人が川に親しみ、愛着をもてるように、さまざまな地域団体の活動や教育機関と連携し、河川美化活動や環境学習の促進等に努める
- 河川区域で違法に行われている耕作、工作物の設置等を監視・是正するため、定期的に河川巡視、地域や関係機関との連携により、監視体制を重層化
- 舟運などの水面利用に配慮し、注意を喚起する表示板やブイの設置などに努めるとともに、航行ルールの啓発に努める



図 河川巡視点検の様子



図 木津川水門（試運転の状況）

2.3 その他河川整備を総合的に行うために必要な事項（地域や関係機関との連携）

- 西大阪ブロックでは、水都再生などまちづくりや都市魅力づくりに関する整備や、高潮・津波対策などの防災施設に関する整備を行っていますが、これら事業の推進には市民や地域活動、行政組織など関係機関との連携が重要になっています。
- 高潮や津波などの水害からまちを守るため、対象河川では人的な操作により水門や防潮鉄扉等の閉鎖を行う必要があります。そのうち防潮鉄扉の操作は地元の水防団や民間の鉄扉利用者により行われます。そのため日頃から施設操作の重要性についての認識が深まるよう啓発に努めるとともに、非常時に迅速な対応ができるよう訓練を実施し、施設操作の習熟と連携強化に努めます。



図 訓練の様子(訓練本部)

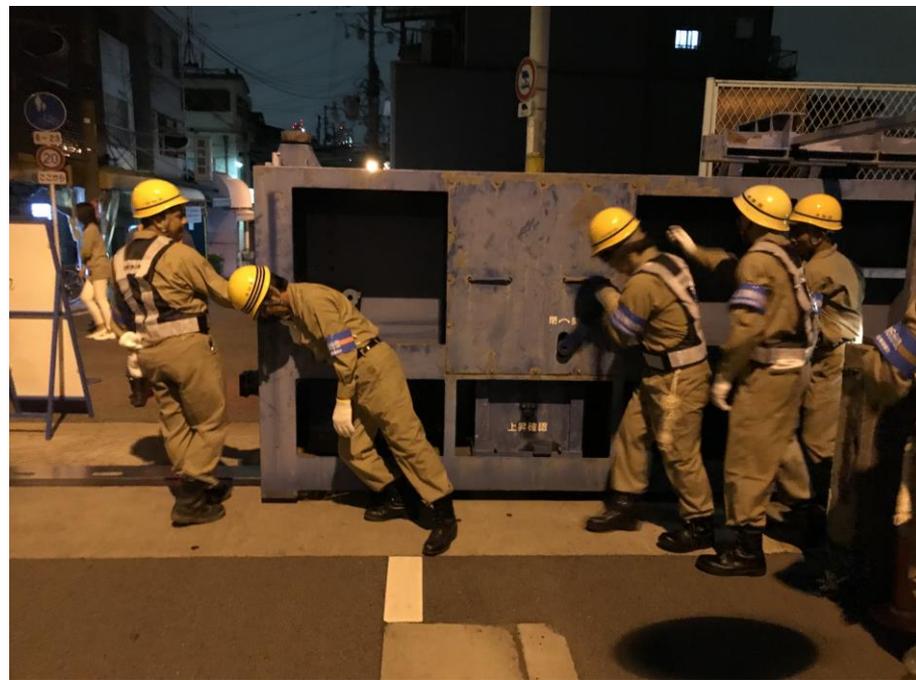


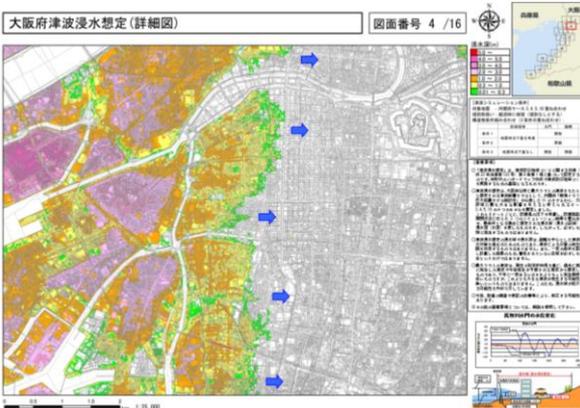
図 訓練の様子(公道鉄扉の閉鎖訓練状況)

【防災情報、河川情報の提供】

- 地震・津波等による災害発生時に市民が安全に避難できるよう、ハザードマップ等の周知や啓発に取り組み、市民の防災意識の醸成に努めます。また、高潮、津波及び洪水に関する防災情報や河川管理施設の被災状況などを周辺住民や河川利用者に迅速に周知する方策を検討し、実施します。
- 実際の避難行動に役立つよう、洪水、高潮、地震・津波、内水被害等に対する被害分析を行い、大阪市の関係部局や公共・公益施設管理者等への情報提供を行うとともに、災害時に的確で迅速な避難が可能となるよう市民や大阪市などの関係機関と連携した避難訓練等の実施を通じて、地域防災活動が円滑に推進できるよう支援を行います。

【津波浸水想定区域図】

想定される津波の浸水範囲、浸水深を確認できます。



http://www.pref.osaka.lg.jp/kikikanri/keikaku_higaisoutei/tunami_soutei.html

【大阪府都市整備部

河川室河川防災情報】

流域内主要河川の氾濫情報が発表されているかなど、確認できます。



http://www.osaka-kasen-portal.net/suibou/kouzuiyosoku/index_kouzui.htm

【おおさか防災ネット】

緊急情報、避難勧告・指示、地震津波情報などを提供しています。



<http://www.osaka-bousai.net/pref/index.html>

図 防災情報の提供

2.3 その他河川整備を総合的にを行うために必要な事項（河川情報の提供）

【防災学習、啓発の取り組み】

- 防災啓発活動の一環として、津波・高潮ステーションでは、過去の津波・高潮災害に関する資料や防潮鉄扉模型、南海トラフ巨大地震に伴う浸水想定図の展示など、防災啓発に関する資料展示を行っています。
- 今後もより周知に努め、津波・高潮に関する府民の防災意識の向上等を図ります。

●津波高潮ステーションの概要

- 入館料 無料
- 開館時間 午前10時から午後4時
- 休館日 毎週火曜日（火曜日が祝日の場合は翌平日）、年末年始
- 住所 〒550-0006 大阪市西区江之子島二丁目1-64
- 最寄駅 Osaka Metro【中央線・千日前線】阿波座駅
（8番・10番出口より徒歩2分）
- 電話番号 06-6541-7799



高潮被災トンネル



津波災害体感シアター(ダイナキューブ)